

本日は皆さん、ご多用のところ、ご参列くださり、本当にありがとうございました。皆さんにただただ感謝です。それが私たちが皆さんにお伝えしたい思いです。

15年間の闘病生活中、父は「生かされている日々だな」「何か、まだ使命があるから、生かされているんだな」とずっと介護を続けた光子に何度も言っていました。

10年前、心臓発作で息が止まりかけ、光子が救急車を呼んで助かることができました。光子の出勤が5分早ければ、助けられませんでした。そのような奇蹟的な救出劇が何度もありました。脳梗塞2回、心臓は3回、救急車には10数回お世話になりました。

父は一度、入院中昏睡状態になり、目覚めた時、「夢で友達の家の前いき、讚美歌が聞こえるので入れてくださいと言ったら、2人の門番が来て、まだだめですと帰された」と言っていました。私は学生時代にクリスチャンとなっていました。私は「良かったね。まだお父さん使命があるということだね」と話しました。

父は「これまで出会った皆さんに、本当にお世話になっている。感謝を忘れてはならない」と言っていました。本日お集まりの皆さん全員が、そのお一人、お一人です。本人に代わって御礼申し上げます。

11月28日から肺炎で入院しましたが、今回も、克服して、退院することを家族みんなが信じていました。実際、12月4日に、「明日にも退院できるだろう」と医師にも言われました。別な症状が現れ、退院は延期されましたが父が天に召されるとは、まったく想像してませんでした。

12月30日、アメリカからきた孫たちと再会し、喜びました。母の具合がよくなったと孫たちが話すと、とりわけ喜びました。母は結婚当初から病気がちで父や私たちが家事をすることが多かったです。でも父は母を愛し、論文を書けば真っ先に母に感想を聞きました。給料の半分は、父の本の購入で母は、そんな父を大好きで応援しました。10年前に介護施設に入った母を平日は父が毎日見舞い、土日は光子が見舞いました。

17歳で小児喘息で旅立った末っ子の京子のお墓にみんなで行ってきたことを話すとそれも喜びました。父は20年間、毎朝、30分かけて通い、涙を流して、1日を始めるのが日課でした。

31日、医師が容体を懸念し、延命治療はしないとの意思を再確認されました。父はうなずきながらも、光子に「おっかないな」といったそうです。光子は「大丈夫。効果的な治療がされるから、また元気になるよ」と伝えたそうです。

父に「イエス様のことを信じて、新しい力をもらって桜ヶ丘に早く帰ろう！」というとうんうんと言いました。「僕にとって最高のお父さんだよ」と伝えました。

1月1日は、私たちの顔を見て涙を流した後、穏やかな笑顔となり、もう大丈夫かなと安心しました。10月には孫のまきしが結婚するから、ひいおじいちゃんになるよとみんなで言ったら、笑っていました。

5日、光子から「症状がいつもと違う。帰ってきて」とのことで東京から弘前に戻る準備をしました。1時間後、光子から電話で、「お父さん、だめだった。お兄ちゃん帰ってくるよと言ったのに、、、」と涙の連絡でした。

皆さん、ご存知の通り、光子はまさに両親に尽くし続けました。医師からは「自宅では無理」と言われましたが光子は父の心を知り、自宅での介護を選択し、がんばり通しました。その光子をここに多くの皆さんが支えてくださり、また、父は支えられました。

父は使命をなし遂げたのだと思います。

今は、人への愛と感謝に溢れていた父にならい、私たちもささやかでも誰かの役に立てるようになり、使命をまっとうできるように努力していければと思っています。

父のこうした幸せな歩みは、皆さんの助けや応援がなければ成り立ちませんでした。心から御礼申し上げます。

これからもどうぞよろしく願います。

本日は、本当にありがとうございました。